

永久保存版

mild Wind

ミルヴィン

2025.12

Nr.4

やさしい風を届ける T E N A ニュースレター



明日につながるやさしさ



DATA

住所：岡山県井原市木之子町2416番地1
URL: https://kinoko-group.jp/facility/o_kinoko-sou/
病床数：完全個室100床
(1ユニット10人)

TENAを導入いただいている施設様

きのこグループ 社会福祉法人新生寿会
特別養護老人ホーム きのこ荘様

入居者様もご家族も、スタッフや地域にも良質なケアがもたらす安心とやりがい

全室洗面所とトイレ付きの個室ユニットで、入居者様一人ひとりに寄り添うケアを提供、地域との交流にも力を入れているきのこ荘様。

認知症があっても、体が不自由でも「たったひとつの人生のあたりまえの生活」を実現するための取り組みをうかがいました。

認知症治療と専門ケアをトータルに展開するバイオニア
誰もが穏やかに過ごせる居場所を

日本初の認知症専門病院「きのこエスポアール病院」を中心に、岡山県と東京都内で認知症ケア事業を展開するきのこグループ。入居者様一人ひとりの「あたりまえの生活」を支えるという理念のもと、認知症ケアに取り組んでいます。1981年に開設された特別養護老

人ホーム「きのこ荘」様は、グループで最も歴史ある施設です。2020年には、ここで暮らす方々が、入居以前の日々とのつながりを感じながら過ごせるようになると全室洗面所とトイレ付きの個室(ユニット型)に改築。個室で好きな音楽を聞き、見たいテレビを見たり、スタッフや周囲の方々とのおしゃべりに花を咲かせたり、好みの食事をとったり。ときには外出の機会も設けるなど、一人ひとりの想いに寄り添う個別ケアを実現しておられます。



大好きな球団の試合観戦を実現（左）。
地域のかかし祭りでも入居者様が活躍されます（右）

言葉にできなくとも
表情が変わる
良質なケアが変えていく

おむつ替えのストレス軽減が
生活全体の好循環をもたらす

ご自身の気持ちをうまく言葉にできない方でも、TENAの導入によっておむつの不快さが劇的に軽減され、穏やかに過ごせるようになつたという原田施設長。

「ご家族から『落ち着いた様子が見えてもうれしい』といった言葉をいただくこともあります。入居者様が安心して過ごせるようになった理由のひとつに良質なコンチネンスケアがあるのは間違いないと思います」

TENAの導入でスタッフの作業負担も大きく減りました。おむつの交換回数が明らかに減り、1回の交換にかかる労力も大きく減りました。ユニットリーダーの高橋三恵子さんは

快・不快に敏感になる認知症排泄ケアが大きなポイント

きのこ荘様は20年前にTENAを導入されました。認知症のある方は「快」と「不快」の感覚が鋭くなります。だからこそ、おむつなど身につけるものが快適であることはとても重要という考え方からTENAを選択されました。導入以前のコンチネンスケアについて、施設長の原田まゆみさんは振り返ります。「漏れを防ごうと、3、4枚の布おむつを重ねづけすることもありました。おむつ内の不快感をなんとかしたいという切実な気持ちから排泄後に手を入れてしまつたり、おむつを外そそうとしたりすることもしばしば。介護者もその対応に追われる日々でした」

「布おむつからTENNAに変更する際、なんてスリムなんだ！」と感動しながらも、本当にこれ一枚で大丈夫？という気持ちもありました。ところが実際に使つてみると、明け方のおむつ交換がいなくなつたのです。すると夜しっかり寝られるようになり、昼間は起きていらざる。これを使っていけば、より快適な生活を実現できると実感しました」

認知症のある方は不安感への感受性が強く、長時間同じ姿勢でいることが難しい傾向にあります。「だからこそTENAのように手早く交換できることが大事。TENAを導入してからは、ベッドの上でもトイレでもスマーズに迅速に交換できるようになりました。外出時には公衆の多目的トイレで交換することが出来るほど製品がうまく設計されています」（高橋さん）。

当たり前だから大切なこと 見直しながら常にベターを探る アセスメントから

サイズもタイプも豊富なTENA

きのこ荘様では、ご家族や入居前にいた施設からの申し送りなどを起点にアセスメントを行います。

介護主任の原田真輔さんは「生活環境が変わると、新しい場所にあわせて1日の生活リズムが徐々に整っていきます。その方に合ったケアを実現するため、入居直後から行動はもちろん仕草や表情なども含めてしつかり観察し、ご本人の思いを汲み取りながら柔軟に対応しています。

きのこ荘様では、ご家族や入居前にいた施設からの申し送りなどを起点にアセスメントを行います。

共有し、入居者様の自立度や生活スタイルに照らし合わせて、ご本人に一番合うTENA製品やおむつ交換タイミングを選定し、シールカードに記録します。おむつは一度決めたらそのままでなく、排泄リズムやおむつの状態の変化を観察、確認しながら柔軟な対応を心がけ、より快適な生活の実現に向けて常に改善しています。そのため、シールカードの内容も頻繁に更新しています」（原田さん）。

「漏れがあれば情報を共有して、どの製品を使い、どんなタイミングで交換すれば改善できるかをユニットで話し合います。起床時に交換する人、就寝前に交換する人、日中はTENAコンフォートで、夜間はTENAフレックスなど、タイ

ミングも合う製品も皆さん違います。また排泄に失敗しても、それはより良い形の実現に向けた『学び』ととらえています。せっかくTENAを使っているのだから、交換回数は最低限にして、その労力や時間を入居者様と過ごしたり、他の作業に使つたりしたいと考えています」（高橋さん）。

尿漏れなどの失敗を恐れずに、一人ひとりに合った形を摸索し続けることは、一見、労力が増えそうに感じます。しかし実際は、適したTENAを使用する

ことでおむつ交換にかかる作業負担や、使用するおむつの枚数が減り、おむつの量を記録します。「結果をユニット内で、夜間はTENAフレックスなど、タイ



入居者様の自宅を訪問するカンファレンス。
ご自宅での様子を知る機会になっています

安心して暮らせる環境を 守るために

余裕のある人員配置で実現する 穏やかな雰囲気、心地よい音環境

グループの理念を実現するうえで、きのこ荘様が大切にしていることは「一緒に生活する」ケアです。入居者様の声を聞き、暮らしに寄り添い、思いを理解すること。入居者様が自分の居場所と感じられる雰囲気のなかで、スタッフ共に過ごし安心できる存在として認識し、ゆっくりおしゃべりする時間もケアの一環と考えておられます。

その方針を実現するため、スタッフ1人に対して入居者様1・5人という手厚い人員配置をとっています。スタッフが作業に追われて、常にせわしなく動き回ったり、遠くから大声で連絡や指示の声が飛び交ったりしては、入居者様が心穏やかに過ごせる環境とはいえません。スタッフも心穏やかに、入居者様の隣に座つて話を聞き、一緒に過ごす時間を楽しむ余裕を確保することで、入居者様が落ち着ける、安心できる居場所づくりを実現しています。

認知症という症状ではなく その方自身を見る大切さ

きのこ荘様では、認知症を「病気」とは捉えていません。ご本人がこれまで歩んできた人生と同様、これから的生活も変わりなく尊いもの。一人ひとりの人生を見守り支えることを何より大切にしています。

のやりがいや喜びを増やすことにもつながっています。

し、臨機応変なケアを提供しています。入居者様の仕草や表情、声の変化などに気を配りながら、一人ひとりの気持ちを汲み取り、その方を知っていく。その積み重ねこそがスタッフが「安心できる馴染の存在」となる第一歩です」(原田施設長)

ことをされるのかを探り、注意が必要なときにも穏やかに対応しておられます。

「入居者様の声なき声を聞き、気持ちを汲み取り、その方を知っていく。その積み重ねこそがスタッフが『安心できる馴染の存在』となる第一歩です」(原田施設長)

氏名	交代時間	AM												PM												備考 使用フックセーション
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
Aさん		 4時	 起床時	本人訴え時トイレ誘導 (コンフォートプラス)												 19時										
Bさん			 起床時	訴え時トイレ誘導 ※夜間Pトイレ使用												 11時～15時(どこかで誘導)		 寝る前								
Cさん	必ず確認 3時～4時			9時～10時												 15時～16時		 22時								

お一人おひとりの排泄リズムに合わせて個別ケアパターンを組み、変化に応じて見直します

きのこ荘様が今後目指していくのは、入居者様の安心、快適を真ん中に据えだうえで「スタッフのみんなが、より楽しく介護にあたれる環境をつくること。現

やりがい重視の介護の楽しみを誇りをもって発信していく

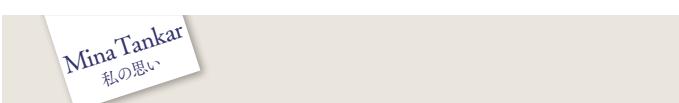
「スタッフが自分が思っている以上に入居者様に向き合えていない様子が見てとれたり、伝えようとすることが伝わっていない感じがあつたりと多くの発見があります。客観的に見るからこそ気づくことができます。自分自身で見て課題に気づき、座つて話をすることの大切さを再確認し、互いに良い点、改善点を指摘し合うことで、ケア向上につなげていくのが目的です。人は目の前の現実に流されやすいもの。だからこそ、何度も基本を繰り返して確認しあうことが大切だと感じます」(原田施設長)

ケアに「これでいい」はない
常に見直し確認し続ける
グループ全体の核となる
つながることを意識した研修

きのこ荘様では、スタッフ研修にも力を入れています。新人研修についてはグループ全体の座学研修で理念をしっかりと伝えただえで、介護の技術的な研修を行います。

毎年秋にはコミュニケーション研修も実施します。入居者様と研修を受けるスタッフがコミュニケーションを取っている様子を3分間ビデオ撮影し、入居者様の言葉を共感的な姿勢でしっかりと聞けているか、会話でのできない入居者様との非言語コミュニケーションで相手に寄り添えているなどを、指導するスタッフ、研修を受けるスタッフたちで映像を見て確認します。

「スタッフが自分が思っている以上に入居者様に向き合えていない様子が見てとれたり、伝えようとすることが伝わっていない感じがあつたりと多くの発見があります。客観的に見るからこそ気づくことができます。自分自身で見て課題に気づき、座つて話をすることの大切さを再確認し、互いに良い点、改善点を指摘し合うことで、ケア向上につなげていくのが目的です。人は目の前の現実に流されやすいもの。だからこそ、何度も基本を繰り返して確認しあうことが大切だと感じます」(原田施設長)



入居者様と共にがあることがすべて
人生最後の時間が幸せであるように

認知症のある方を理解するためには
隣に座って一緒に過ごすこと

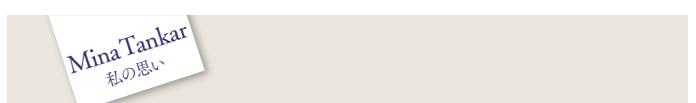
きのこ荘で新人研修を受けたとき、こんなに入居者様目線のケアが実現できるんだと驚き、それまでの介護に対するイメージや常識が覆されました。入居者様と接するなかでも、日々気づきをいただいている。たとえば自分から見て「ちょっと困るな」と思う入居者様の行動にも、その方なりの意味があり、寄り添うことでの思いを感じられます。

私たちが携わるのは、とても重い仕事であると同時に、人生の最後の時間を共にする、非常に意義深い仕事です。この方はここで幸せに過ごされたのか、自分は何をしてあげら

れたのか。常にそれを考え続けています。スタッフの目から見ても、きのこ荘は地域に必要とされていることを感じます。この先もスタッフが気持ちをひとつにしてより良いケアを目指します。



介護主任 原田真輔さん



仕事を楽しみ、常に悔いのないように
できること、やるべきことをやり続ける

何ができるかを考えて実行できる
任せてももらえる環境がやりがい

「入居者様と一緒に楽しむ」ことが私のモットーです。今日お元気だった方が、明日私が出勤したときに同じように元気でいらっしゃるとは限りません。人生の最後の瞬間は、いつ訪れるかわからない。実際に看取りの機会も多くあります。だからこそ、常に悔いが残らないケアができるよう、ご家族とのより良い関わり方を含めて日々勉強しています。

現場のスタッフを信頼し、やりたいことをやらせてくれるきのこ荘の環境に感謝しています。このなかで、笑顔であっても悲しみであっても、入居者



ユニットリーダー 高橋三恵子さん

場のスタッフが楽しそうで、入居者様が穏やかに笑顔で生活すること」。その実現に向けて努力することがやりがいにもなっていると原田施設長。

なかでも、ケアで大切だと考えることをまとめた「きのこ荘 17 条憲法」はユニー

クな取り組みです。これはユニットリーダーへの研修の一環で、リーダー同士で大切なことを語り合いながら17項目を決め、一人ひとりがひとと項目ずつ担当して言語化し、それをみんなに共有するといふもの。「こうあるべき」を上層から説かれるのではなく、スタッフが理念を形にすることで、実践につながる真の意識の共有と徹底を図っています。

またSNSでの発信にも力を入れています。「介護業界では今後も『効率化』を重視する風潮が強まるでしょう。そのなかでも私たちは楽しさ、やりがいを大切にしていきたい。介護の魅力を発信したいし、自分たちが理念に基づいて実施しているケアを知つていただくことで、自信につなげていきたいと考えています。ブランディングや他施設との差別化を意識しつつ、入居者様にとってのベストな介護のあり方を常に追求していきます」(原田施設長)。

イベント参加やSNSも駆使し
地域にどうて頼れる存在となる

施設入居後も続く

きのこ荘様では、ユニットを入居者様とスタッフ様が共に過ごすひとつの家と

とらえて います。そして、ご家族にとつては「離れ」のような関係性を目指して います。前出(3ページ)の入居時アセスメントに加えて、2020年からは、担当 のケアマネジャーと介護士が入居者様と一緒にご自宅を訪問するカンファレンスを 実施 しています。

ご家族との信頼関係の構築に加え、ご自宅で生活していたときの様子などを知ることが目的です。

ご自宅での仔まいや行動から、その方の人物像がより鮮明になつたり、ご家族の前での振る舞いから意外な一面を発見したり。「ご家族との距離も縮まる楽しい時間であり、より適切なケアを考える上で学びが多い取り組みです」(原田さん)。ご家族もスタッフと話がしやすくなり、互いに要望を伝えやすくなるなど、多くのメリットがあります。スタッフが入居者様のご自宅でご本人やご家族と一緒に夕食にお呼ばれしたり、一緒に泊まつたりすることもあります。

数時間から一泊をこ自宅で過ごしていただくことは、特別な帰宅イベントではなく、継続的な取り組みです。昨年は延べ101件の帰宅がありました。「家に帰つて来られるんですね」と喜ばれるご家族も多く、この取り組みがあるからこそ「この荘を選ぶ」というご家族もいらっしゃいます」(原田施設長)。

入居者様は、きのこ荘様から外出して、散歩やドライブをしたり、広島市民球場で野球観戦を楽しんだりすることもあります。

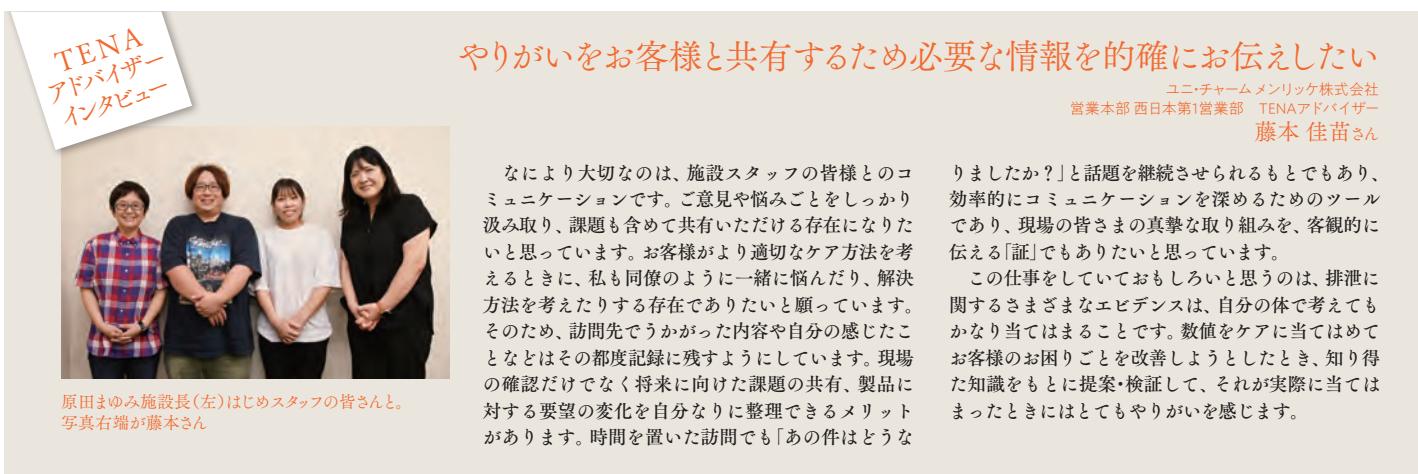
きのこ荘様が地域に溶け込んだ施設であることも、入居者様が地域へと外出しやすい理由です。地域担当スタッフがいて、地域のイベントに模擬店を出したり子どもたちのイルミネーション企画と連動して施設をイルミネーションしたり。毎年秋に市内で開催される「かかしコンテスト」では受賞の常連です。また「きのこ荘まつり」や「きのこ茶屋」など、施設主催の地域交流イベントも定期的に開催しています。

さらにSNSを活用した情報発信にも力を入れています。「施設にまつわる情報や報告に加え、きのこ荘のスタッフたちの取り組みも発信しています。スタッフが当たり前のように行っていることのなかに、素晴らしい取り組み、讃えられるべき張りがたくさんあるので、それを知つていただきたいと思つています」(原田施設長)。

地域との交流連携やSNS発信で「きのこ莊」にあり」を伝えたい

困りません。傍から見てもおむつが目立たず、臭いの漏れないので、安心してお出かけを楽しめます」(高橋さん)。

地域との交流・連携やSNS発信「
「きのこ荘」にあり」を伝えたい



世界の風

母国スウェーデンと日本を行き来しながら
福祉の研究、介護の実践を続け、
日本にスウェーデン流介護を広めた
グスタフ・ストランデルさん。
今号では、日本で発展したケアが
世界に与えた影響と、
ディギニティー（尊厳）を大事にする
ケアの未来について語っていただきます。

Nr.3 スウェーデンと日本、 中から見て考える 介護の現場(2)

världens
vindar



グスタフ・ストランデル／1974年生まれ。武藏野大学ウェルビーイング学部教授。専門は、高齢者福祉、介護学。日本とスウェーデンのほか、世界各国の介護事情に精通している

システムを確立させた日本 理念のもとに実践し

うという考え方です。

日本では「スウェーデンは福祉大国」という言葉を聞きます。けれど、スウェーデンから来た私の目には、日本の福祉特に地域包括ケアの実践力は素晴らしいと感じます。

スウェーデンから学んだ日本で、最初はそれぞれの施設や介護者独自の取り組みとして施設の個室化や個別ケアが始まっています。それが介護保険などのシステム化につながっていました。しかも30年ほどのスピードで介護施設の環境を変えるというのは、世界でも例のないことで、その素晴らしさを日本人たちに知つてほしい、忘れないでほしいと前回お伝えしました。

北欧諸国では、施設で暮らす認知症の人も、街の中を自分で、地域から隔離するのではなく、みんなで見守りましょ

うという考え方です。

日本でも認知症発症後、ある段階まではケアを受けながら地域の中で暮らしています。それは以前から当たり前にだったのではなく、「そうしたい」と思った人たちが頑張って動いた結果、行政や国が動いてシステムがつくられたのです。介護保険だけでなく、たとえば厚生労働省の認知症対策の一環で始まった「認知症カフェ」や「認知症本人ワーキンググループ」など、より良いケアをめざす人たちが全国組織をつくって活発に活動しています。

先に理念がある、それに基づく実践があり、そこからメソッドが確立され法律が変わっていました。それこそが人口1億2000人超の日本で、30年ほどという短期間に地域包括ケアシステムを機能させられた理由だと考えます。

高齢化社会は世界的な課題 対応する国際基準の開発

少子高齢化は世界中、特に先進国にとって大きな課題です。そうした状況に対応するため、各国の専門家が集まって、認知症包括ケアや介護者を含む組織のあり方に関する国際基準の策定が2018年から進められています。私はその会議に日本代表として参加しています。



高齢社会に関する国際基準の策定会議メンバー(ISO/TC314)
2025年6月に韓国で行われた会議には、オンラインも含めて数十カ国
の代表が参加しました

されたとき、イギリス代表は冒頭のあいさつで「今、日本の地域包括ケアを勉強しています」と、ガイドラインにはもちろん、日本の包括ケアのエッセンスがたっぷり盛り込まれており、「認知症カフエ」や「認知症本人ワーキンググループ」などの成功事例も紹介されています。

しかし、日本国内ではあまり活用が進んでいません。理由のひとつは、日本ではすでに地域包括ケアのシステムにのっとって現場が動いているから。そしてもうひとつは、チェックリストの存在です。

国際基準にはチェックリストが必要になります。けれど、リストがあると、それに照らし合わせて「できていること」「できていないこと」がはっきり示され

てしまします。現場や地域の状況で必要でない項目であってもリスト上では「できていない」ということになる。だから取り入れにくいという事情があります。

各地域で認知症に関わる人々に
とつて必要なことや課題を洗い
出し、どうするかを話し合い、
条例をつくって実践しています。
従つて、基準に合わないから、
「出来ていない」という訳では
ありません。とはいっても、基準は
無視してよいものでもあります
。基準に照らし合わせ、確認
しながら自分たちに必要なも
のを生み出していく。そうして
初めて自分たちのやり方や特
徴を客観的に評価できるのです。

日本のケアシステムの素晴らしい点は、そこに関わる多くの人々が「いいことをしようと」していることです。地域の中で要介護者が暮らせるよう、優れたシステムを各地で実現しようとしている。ただし今後は、特に地方では財源問題、都会では人材不足解決の見通しが立たなくなると危惧されています。要介護者は増え続け、労働人口は減り続ける。そこに万能の解決策は見つけられませんが、ケア

ディグニティー(尊厳)が ケアの現場を変える

シミナルとして生きる意味を一緒に見出すことができれば、要介護者だけでなく、介護する側も変わります。

「早く死にたい」「ケアなんていらない、放っておいてほしい」と要介護者に言われることもあるでしょう。それに 対して「死にたいのならケアする意味がない」「やりがいがない」と感じてしまうことがあります。

へのより深い理解が必要であり、介護の現場ではそれが求められます。

ディグニティーとQOL
TENAで排泄ケアを変えたい

の基盤として、常にディイグニティー（尊厳）を大事にすることが欠かせないと考えます。生き生きと格好良く生きている人の尊厳を認めるることは難しくありません。

排泄を誰かに頼っていた人が、
より自分に合ったパンツやおむ
つを自分で使えるようになります。
それは本人の自信となり、そ
の元気になった姿が家族を喜
ばせることにもつながります。

こういった話は、ともすれば理念的、哲学的になつていきます。理念も大切ですが、具体的な積み重ねがもつと大事です。理念と具体策を両立する排泄ケアを提供できるTEN Aには大いに期待しています。

おねがいごと

たかいひろこ



コラム



こんなときどうする？

ナッピー先生のレクチャータイム

“スキンケアは
予防的に”

刺激を避け、適切なケア用品を選ぼう

皮膚ケアの始まりは観察から

皮膚トラブルは快適な生活を損ねる大きな要因のひとつ。トラブルを起こさない予防が第一じゃが、次に悪化させないことがポイント。そのためには早期発見が重要じゃ。パッド交換時や入浴時は皮膚観察のチャンス。毎日のケアプランに組み込んで、仕組みとして肌の観察をするといいじゃろう。

チームプレーも大切

肌にやさしいスキンケアは、介護スタッフ、医療スタッフ、栄養士、ケアマネージャーや事務スタッフなどの連携で効果が高まる。一人ひとりの肌の状態に合わせた日々のケアの中で、小さなトラブルを見逃すことなく必要に応じて医療スタッフに報告しよう。栄養状態も肌に関わるので何をどれだけ食べているのかもチェックじゃぞ。

適切なケア用品で質の高いケアを

尿や便が肌に触れている時間が長いほど、肌への負担になる。また洗浄や清拭時の摩擦、洗浄剤なども皮膚炎の原因になりやすい。パッドなどのケア製品の選び方、交換のタイミングや交換の仕方を適切にしたうえで、肌のダメージを軽減するスキンケアクリームなどを使用するのがおすすめじゃ。

『ナッピー先生と学ぶ
大人のおむつ読本』

コンチネンスケアの基本を漫画とコラムでわかりやすく紹介。介護や看護に携わっている方はもちろん、尿漏れが気になる方にも役立つ情報が満載です。

Amazonや楽天でご購入いただけます。

- 電子版：880円、
- ペーパーバック版990円（ともに税込み）



製品のご紹介

皮膚保護クリーム『TENAバリアクリーム』
冬の乾燥からお肌を守りませんか？

- お肌の表面に撥水効果のある薄い膜を作り、お肌の乾燥を防ぎます
- 薄い膜が、尿・便・汗・パッドとの摩擦などの外的刺激からお肌を守ります
- クリームが透明なので、お肌の状態を確認しながらケアにあたっていただけます
- 皮膚呼吸を妨げないので、蒸れにくく快適にお過ごしいただけます
- 保存料なし・無香料のため、よりシンプルな製品をお探しの方におすすめです

ご使用場面

- 冬の乾燥でお肌がカサカサにならないよう、ひじ・ひざ・かかと・すねに
- 排泄物の汚れがつきやすく、外部刺激から守りたいときに
- おむつやパッドの摩擦からお肌を守りたいときに



内容量: 150mL

皮膚科学的テスト
実施済みスキンヘルスケア
アライアンスによる認証

Mild Vind
2025.12 Nr. 4

P 2 : きのこ荘様

P 6 : 世界の風 Nr. 3

P 8 : 4コマ漫画

コラム

製品のご紹介

Mild Vind(ミルヴァイン)は、スウェーデン語で「やさしい風」の意味です。

バックナンバーはこちら

オンラインTENAアカデミー
<https://tena-academy.jp>

